

事務事業名		栃木県まちなか元気会議参画事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	1 地域の特色を活かした快適なまちづくり					担当組織	担当部	都市建設部	担当課	都市計画課
	政策	2 住みやすい快適なまちづくり					担当係	まちなか活性化係		担当課長名	越石 彰
	施策	2 まちなかの活性化と公共交通網の整備					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	1 計画的な中心市街地活性化の推進					実施計画事業・一般事業		一般事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	11454	一般	8	4	1	栃木県まちなか元気会議参画事業					
	事業区分						市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	11年度～ 年度		根拠法令 条例等	中心市街地の活性化に関する法律、栃木県まちなか元気会議規約		任意的事業・義務的事業		任意的事業	
							実施方法		直営		
							事業分類		参画事業		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
栃木県まちなか元気会議に会員として負担金を支出している。また、元気会議主催の会議や研修会に参加することにより、中心市街地活性化に関する情報収集や意見交換を行っている。 参画団体: 栃木県まちなか元気会議 * 栃木県まちなか元気会議とは、栃木県内における中心市街地の活性化を図るため、県内市町の自治体を会員として構成している団体である。			(市の活動) 栃木県まちなか元気会議に負担金の支出、年2回の会議出席、年4回、研修会・視察に参加。(栃木県まちなか元気会議の活動) 年2回の会議、年7回の研修会・視察、その他年7回の連携事業、ホームページの更新等による情報提供を実施							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			会議出席回数	回	2	2	2			
			研修会参加回数	回	4	4	4			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市長及び関係市職員			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			係職員数	人	4	4	4			
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
① 中心市街地活性化についての県内外の事例や最新情報を得る。 ② 中心市街地活性化についての意識や資質の向上を図る。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			知識や意識が向上したと感じる職員の割合	%	100	100	100			
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
地域の特色を活かした事業展開や基盤整備を進めることにより、魅力的なにぎわいのある中心市街地を形成する。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			まちなかが以前に比べて便利になったと思う市民の割合	%	25.9	25.9	29.0	30.0	31.0	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)			
	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	60	60	60					
	事業費計(A)	千円	60	60	60	0	0			
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			負担金	60	負担金	60	負担金	60		
人件費	千円	117	118	118	0	0				
トータルコスト(A)+(B)	千円	177	178	178	0	0				

事務事業名	栃木県まちなか元気会議参画事業	担当部	都市建設部	担当課	都市計画課	担当係	まちなか活性化係
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------	-----	----------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	平成11年7月に県と関係市町村で構成される協議会が設立され、会員となった。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	人口減少、少子高齢化の進展、空き店舗数の増加など中心市街地の抱える課題は、本市に限らず県内各市町においても深刻な問題となっている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	研修会参加者からは、先進地の事例を勉強することができ、中心市街地活性化の参考になるとの意見が多い。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	平成26年度は具体的な改革・改善の取組をしていない。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市職員が栃木県まちなか元気会議に参画し、中心市街地活性化についての県内外の事例や最新情報を得ることは、本市における中心市街地活性化を推進することにつながるものである。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	栃木県まちなか元気会議の会員は、栃木県まちなか元気会議規約第4条に基づき、当会議の目的(中心市街地活性化推進のための調査・研究、関係職員相互の情報交換・意見交流による各市町の中心市街地の活性化推進)に賛同する市町によって構成され、会員は各市長・町長とすると定められているため、市が参画すべきものである。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	栃木県まちなか元気会議規約に基づき、会員は市長となっているが、実質的に会議や研修会は職員が参加し、県内外の中心市街地活性化のための事例や最新情報を入手し、本市の中心市街地の活性化につなげているものであるため、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	これまで、他市町の活性化事例を参考にし、本市の中心市街地活性化基本計画を策定するなどの成果を挙げることができており、今後も他市町の事例を参考としながら、本市の中心市街地の活性化に取り組む必要がある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名
	*類似事務事業があれば、名称を記入			
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	事業費は当会議に参画するための負担金で、一定額が決められているため、現在のところ削減余地はない。人件費については、会議・研修会への参加に係るものであるが、最少人数での参加であるため、これも削減余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案	この事業の直接の受益者は、この会議に参画している市職員であるが、この会議に参加することにより、他市町のまちなか活性化の取組を学び、本市の取組に活かすことができるので、結果的には市民が受益者となるため、受益者負担を求める余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか?) 栃木県まちなか元気会議が解散されれば、事業は廃止となる。			

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																					
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○	×																			
	低下		×	×																			